

みどり市市制施行10周年記念 市勢要覧の発行にあたって

10th Anniversary of the Municipal System Enacted for Midori City
Issuance of the City Profile Handbook



みどり市長
石原 条

みどり市は、平成28年3月27日に市制施行10周年を迎えました。

みどり市は、群馬県の東部に位置し、北部は足尾山地が連なり、そこを源とする渡良瀬川が市を南北に流れ、南部には平坦な大間々扇状地が広がる、文字どおり緑豊かな田園都市です。

市内には、日本で初めて縄文時代以前に人類が存在したことを証明した「岩宿遺跡」や、おぎょんの名で親しまれ江戸時代から続く「大間々祇園まつり」、江戸時代の銅山街道に設けられた宿場の様子を今に伝える「花輪宿」など、先人たちが残した歴史や伝統文化が息づいています。

この10年「輝くひと 輝くみどり 豊かな生活創造都市」を将来像として掲げ「みどり市総合計画」に基づき、市民が子育てしやすい環境整備を進めるための「子育て環境対策」、市民が安心して生活できる環境整備を進めるための「市民の安全安心対策」、さらに原発事故に伴う電力不足対策のための「新エネルギー対策」などを重点事業として実施してきました。

特に「新エネルギー対策」では、地球温暖化への対応およびエネルギーの安定供給の確立を図るための第一歩として、市有地4カ所に太陽光発電施設を設置し、さらに環境保全および次世代エネルギー活用促進のため、みどり市役所笠懸庁舎と富弘美術館に電気自動車充電設備の整備を行いました。

今後も、先人から受け継いだ豊かな自然、歴史や文化を次世代に引き継ぎ「持続可能なみどり市」として、市民の皆さんが明るく元気で、笑顔あふれるまちづくりに取り組んでいきます。

この市勢要覧をお読みいただき、みどり市の10年の歩みや市の魅力をご理解いただき、これからのみどり市にご注目いただければ幸いに思います。

Midori City celebrated the 10th anniversary of its enactment as a municipal system on March 27, 2016. Midori City is located in the eastern part of Gunma Prefecture. To the north lies the Ashio Mountain Range, which is the source of the Watarase River that flows from north to south through the city, and to the south lies the alluvial delta of the Omama Flatlands, and as the word Midori (green) suggests, it is a garden city abundant in greenery.

Within the city precincts is much evidence of the history and traditional culture left to us by our forefathers in the shape of the Iwajuku Ruins, which prove the existence of Japan's first race of people prior to the Jomon Period; the Omama Gion Festival, which has carried on the familiar name of Gion since the Edo Period; and Hanawa Juku, which displays scenes of a post town constructed alongside a mining road in the Edo Period.

Based on the General Plan for Midori City that was established with "Creative City Containing Bright People, Bright Greenery and Prosperous Lifestyles" as its vision for the future during these ten years, the city has implemented a wide range of important projects, including the Child-Raising Environment Policies for moving ahead with the creation of an environment in which local residents find it easy to raise children, the Citizen Safety and Peace of Mind Policies for moving ahead with the creation of an environment in which local residents can lead anxiety-free lifestyles, and the New Energy Policies, which are aimed at counteracting the shortage of electrical power caused by the Fukushima nuclear accident.

The New Energy Policies in particular represent the first step in coping with global warming and establishing stable supplies of energy, and these policies involve the construction of solar power generation facilities in four city-owned areas, and equipping the Midori City Hall, the Kasakake Town Hall and the Tomihiro Art Museum with electric vehicle recharging facilities in order to promote environmental conservation and the use of next-generation energy.

In the future we will also implement town planning initiatives to establish a sustainable city that passes the abundant nature, history and culture inherited from our forefathers across to future generations, and in which all residents can live healthily and with smiles on their faces.

We hope you will read the City Profile Handbook to gain a full understanding of the route the city has followed over the course of the past ten years and the charm that it exudes, and continue to provide Midori City with your support into the future.

継ぐ物語

私たちが継いできたもの
継いでいくもの

『豊かな自然』『古代からの歴史』『胸躍るまつり』

『命のかがやき』『みんなの楽しみ』

みどり市が未来へと継いでいきたい5つの物語。

市民と共に守り、育み、

次世代へと語り継いでいく物語を訪ねました。

The Elements Inherited
The Elements to Pass On

[Abundant Nature], [Ancient History], [Exciting Festivals],
[Radiance of Life], [Enjoyment for Everyone]
The five tales that Midori City will pass onto the future.
Visiting the tales that the city will protect, nurture and pass
on to future generations together with local residents.





けさかけ橋



小中大滝

みどり市は、南北に細長い地形で、北東から南東にかけて足尾山地を源とする渡良瀬川が流れ、さまざまな自然の姿を見ることが出来ます。

北部の東町には草木湖・草木ダムがあり、豊富な水を首都圏に供給しています。湖面は、周囲の景色が映り込み、四季折々に美しく彩られます。また、袈裟丸山の麓にある壮大なスケールを誇る小中大滝では、最大傾斜44%の階段式つり橋「けさかけ橋」からの眺めが最高です。

中央部の大間々町から南部の笠懸町にかけては、渡良瀬川が作り出した大間々扇状地により形成されています。扇の要の部分に当たり、川の浸食で作られた河岸段丘は「まま」と呼ばれ、大間々町名の由来となりました。また、高津戸峡は「関東の耶馬溪」ともたたえられ、兩岸の紅葉が映える秋季の景観はまばゆいばかりです。

豊かな自然

自然が織り成す美しい風景

Nature of Midori



袈裟丸山



草木湖



稲荷山のカタクリ

咲き誇る花々

市内には四季を通じ多種多彩な花が咲き誇り、訪れる人に感動を与えます。

笠懸町では、3月下旬から4月上旬にかけて、稲荷山北側を紫紅色に染めるカタクリや、鹿の川沼堤の並木の桜が咲いて「カタクリさくらまつり」も催され、春の訪れを告げます。また、9月下旬になると、約12万本のヒマワリが鹿田山東側の一面に花開き、そこで開催される「ひまわりの花畑まつり」は秋の風物詩となっています。

大間々町では、秋にながめ公園で「関東菊花大会」が行われます。会場には約1、100鉢以上の菊が美しさを競い、期間中は大勢の入場者でにぎわいます。

わたらせ渓谷鐵道沿線大畑地区は、毎年4月中旬に2kmに渡り花桃で満開になります。神戸駅では花桃まつりが行われ、大勢の写真愛好家が訪れます。沢入駅では7月にあじさい祭りが開催され、駅周辺は約2、200株のアジサイがしっかりと咲きます。花桃、アジサイいずれも鐵道社員や地元の方たちが増やしてきたものです。



神戸駅の花桃



沢入駅のアジサイ



関東菊花大会



ひまわりの花畑まつり



鹿の川沼堤の桜並木



1949年9月11日最初の発掘調査（明治大学博物館提供）

古代からの歴史

岩宿遺跡

岩宿遺跡は、昭和21年に相澤忠洋さんにより発見され、昭和24年に行われた発掘調査で、日本列島には旧石器時代はなかったという戦前までの考古学の常識を覆しました。

遺跡は昭和54年8月17日、国の史跡に指定され、その保護と整備活用が進められています。平成2年には遺構保護観察施設（岩宿ドーム）が整備され、岩宿遺跡の地層と時代を分かりやすく学習できるようになりました。

平成4年に開館した岩宿博物館は、日本の旧石器時代（岩宿時代）の研究拠点として、また、各種の講座や体験学習を通じて、子どもから大人までが学べる場となっています。

みどり市では「岩宿文化賞」を設け、岩宿時代研究に功績のあった人を表彰しています。また、将来、岩宿文化賞を目指す研究者が育ってくださることを願い、研究奨励賞学生部門賞を設け、毎年大勢の子どもたちが作品を応募しています。



岩宿博物館



岩宿博物館内



最初に発掘調査が行われた A 地点



深沢集落

花輪と桐原の荷継場および大間々町の中間地点にあり、旅人の憩いの場としてにぎわったという。



花輪銅蔵

嘉永3年(1850)竣工。昭和8年の改修で現在の姿になる。継送札や古文書など銅山街道関連の資料が豊富に残る。



寝釈迦

袈裟丸山の塔ノ沢筋の不動岩と呼ばれる岩に彫られた釈迦涅槃像で、江戸時代後期の思想家高山彦九郎の旅行記にも記されている。像長368cm。



大間々町

江戸時代初めに開拓され、桐原に遷されるまで荷継場が置かれた。その後も在郷町として物資の流通拠点となり発展した。



桐原銅蔵

延享3年(1746)以降、花輪一大原本町間の銅の荷継場となる。現存銅蔵は昭和30年に改修されたもの。銅山街道関連の資料を残す。



鹿の川沼の工ノキ

樹齢約300年。桐原一大原本町の中間(約4km地点)にあり、一里塚の木と推定されている。

銅山街道

あかがね街道の名で親しまれている銅山街道は、足尾で採掘・精錬された銅を利根川の河岸まで運ぶルートとして、近世になって整備された道です。14里半(約58km)とされた街道にはいくつものルートがあります。その道筋は市を南北に縦断しており、市内の各所に街道にまつわる古跡が残り、往時がしのべられます。街道には5つの荷継場が設けられ、市内では沢入・花輪・桐原の3カ村に銅の荷継場が置かれました。花輪と桐原には銅を一時保管した銅蔵が残っています。

沢入石畳



岡上景能公の墓



岡登用水三俣分水口

岡上景能



江戸時代前期、足尾代官として銅の生産向上と輸送の効率化を図り、笠懸野に新道を整備。大原宿までの宿用水として開削した笠懸野御用水は、荒野であった笠懸野に多くの新田を開くきっかけとなった。景能の非業の死により用水は閉ざされたが、明治時代に流路を変えた「岡登用水」として再興され、流域の田畑を潤している。その業績は現在も人々の尊敬を集めている。



7号住居跡(手前左)、10号住居跡(奥)、11号住居跡(手前右)



7号住居跡出土遺物(多縄文系土器)

笠懸町西鹿田にある西鹿田中島遺跡は、戦前から日本の石器時代(縄文時代)の始まりを考える上で、重要な遺跡であると考えられています。平成10年から行われた発掘調査により、今から1万3千年前の貯蔵穴やイエの跡、1万1千年前の重なり合ったイエの跡が見つかりました。そして、東日本を代表する、岩宿時代から縄文時代に移り変わっていく様子がよく分かる遺跡として、平成16年9月30日に国の指定史跡となりました。みどり市では、平成22年から西鹿田中島遺跡を保存活用するため、史跡整備事業を進めています。

西鹿田中島遺跡



山車巡行（大間々祇園まつり）

胸躍るまつり

地域色豊かな夏まつり

みどり市の夏まつりは、各町で地域色豊かに繰り広げられます。

8月1日から3日にかけて行われるのは大間々祇園まつり。380年以上の歴史があり、地元の人たちから長く「おぎょん」の名で親しまれています。本町通りを駆け抜ける勇壮な神馬や、みこしパレードなど楽しみはたくさんありますが、大間々祇園まつり一番の見どころは、山車の巡行です。夕方から夜にかけて街中を進む様はとても幻想的です。

8月15日に行われるのは草木湖まつり。草木ダムの完成に伴い、この地域を離れた人に、年に一度は故郷で過ごしてほしい、との願いから始められました。ファイナーレに打ち上げられる花火の音は、ダム堤体に反響して胸を高鳴らせます。

8月下旬、市に夏の終りを告げる笠懸まつり。700kgもある氷みこしを若者たちが担ぐ姿は圧巻です。地元の団体が奏でる八木節音頭に乘せて老若男女が入り乱れて踊り、熱気は最高潮に達します。



八木節踊り（笠懸まつり）



神馬（大間々祇園まつり）



あづま太鼓（草木湖まつり）

氷みこし（笠懸まつり）



横町太々神楽



小中獅子舞



小夜戸の小正月飾りを祝う会

笠懸町阿左美横町地区の秋葉神社で、毎年4月の第1日曜日と10月の第3日曜日に奉納される市に唯一残る神楽です。笛・太鼓のおはやしに合わせ、神話などに題材をとった多彩な演目を舞います。

大獅子、女獅子、伴獅子、火吹面、おかめの5人が、笛・太鼓・鉦のおはやしに合わせて五穀豊穡や無病息災などを祈願して、毎年9月の第1日曜日に東町小中地区の鳥海神社の境内で舞い踊ります。

養蚕が盛んであった東町小夜戸地区では、毎年1月中旬に小正月飾りを祝う会が行われます。大朴、粥搔棒、孕箸、御神刀大小二振、采配、打ち出の小槌、搔花、十六殿神、搔花十二神将のお飾りと繭玉飾りで豊作と家内安全を祈願します。

横町太々神楽

小中獅子舞

小夜戸の小正月飾り

受け継がれる伝統文化



花火（草木湖まつり）



富弘美術館

命のかがやき

富弘美術館

みどり市東町出身の星野富弘さんは、不慮の事故により手足の自由を奪われてしまいましたが、筆を口にくわえて文章や絵を描き、さまざまな詩画作品を生み出しています。富弘さんの水彩の作品は「命の尊さ」「生きる勇氣」を私たちに語り続けています。長年にわたる優れた創作活動を通じ、多くの人々に深い感動と生きる勇氣を与えた功績が認められ、平成18年に群馬県の名誉県民となりました。

富弘美術館は、東町の美しい自然の中に溶け込むように建っています。富弘さんの作品がやさしく迎えてくれるこの建物には廊下や柱が全くなく、円筒状の部屋がいくつも集まっています。壁・床の色、角のない丸い部屋は、常識にとらわれず、流れるような独自の展示を可能にしています。また、美術館を囲む散策路では、素材も部屋ごとに異なり、違った雰囲気を感じることができます。展示室のほかにも、草木湖を望める眺めのよい休憩室や、ゆったりくつろげるカフェなどもあります。また、美術館を囲む散策路では、草木のにおいや風を感じながら、のんびり散歩することができます。





星野富弘 プロフィール

- 1946年 群馬県勢多郡東村（現在のみどり市東町）に生まれる
- 1970年 群馬大学教育学部保健体育学科卒業。中学校の教諭になるがクラブ活動の指導中頸髄を損傷、手足の自由を失う
- 1972年 群馬大学病院入院中、口に筆をくわえて文や絵を書き始める
- 1974年 病室でキリスト教の洗礼を受ける
- 1979年 前橋で最初の作品展を開く。退院
- 1981年 結婚。雑誌や新聞に詩画作品や、エッセイを連載
- 1982年 高崎で「花の詩画展」。以後、全国各地で開かれる詩画展は、大きな感動を呼び現在も続いている
- 1991年 群馬県勢多郡東村に村立富弘美術館開館
// ブラジルの各都市で「花の詩画展」
- 1994年 ニューヨークで「花の詩画展」
- 1997・2000年 ハワイで「花の詩画展」
- 2001年 サンフランシスコ・ロサンゼルスで「花の詩画展」
- 2004年 ワルシャワ国立博物館「バリアフリーアート展」に招待出品
- 2005年 富弘美術館新館開館
- 2006年 熊本県芦北町立星野富弘美術館開館
// 群馬県名誉県民となる
- 2011年 群馬大学特別栄誉賞受賞（第一回）
- 2014年 富弘美術館の入館者650万人を超える
- 現在も詩画やエッセイの創作活動を継続中

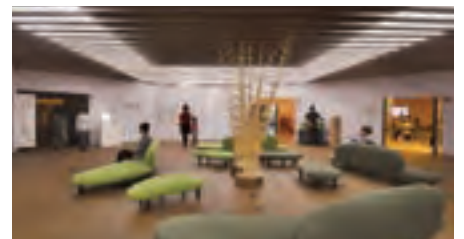


悲しみの意味

著書に、新版「愛、深き淵より。」「風の旅」「かぎりなくやさしい花々」「鈴の鳴る道」「銀色のあしあと」「速さのちがう時計」「あなたの手のひら」「花よりも小さく」「星野富弘全詩集」「山の向こうの美術館」「星野富弘ことばの雫」などがある（「愛、深き淵より。」「風の旅」「かぎりなくやさしい花々」「鈴の鳴る道」は、ミリオンセラー）。英訳された著書は国内外の多くの人に読まれている。また、発表されている作品は数多くの教科書に掲載され、合唱曲集、歌曲集、CDにもなっている。美術館でしか販売していないオリジナル商品のマグネット、ストラップや鈴なども人気がある。



円形の展示室



ロビー



オリジナルグッズを販売するミュージアムショップ



草木湖を望むカフェ



わたらせ渓谷鐵道

動画で見る
みどり、溪谷、古代ロマン、
トロッコ列車に夢を乗せて



Enjoyment of Midori

みんなの楽しみ

わたらせ渓谷鐵道沿線

第三セクターで運営されるわたらせ渓谷鐵道は「わてつ」の愛称で親しまれ、鉄道愛好家に人気があります。天皇皇后両陛下も乗車されたトロッコ列車に乗れば、美しい自然と新鮮な空気を存分に味わえます。
また、沿線には、キャンプ場など楽しい体験ができる施設がたくさんあります。

- 富弘美術館
- わらべ工房
- ファミリーオートキャンプ場 せうり
- 陶器と良寛書の館
- 黒坂石バンガローテント村
- 童謡ふるさと館
- 国民宿舎 サンレイク草木
- 小平の里 (親水公園)
- 露天風呂「美人の湯」(サンレイク草木)
- 旧花輪小学校 記念館
- 小平の里 (鍾乳洞)
- 浅原体験村
- 大間々まちなか
- 高津戸峡



ながめ余興場（昭和12年建造）

大間々まちなか

大間々町のまちなかには、明治16年に群馬県で最初の私立銀行として開業した旧大間々銀行本店の建物を有効活用した大間々博物館（コノドント館）をはじめ、明治から昭和初期の面影を色濃く残す歴史的建造物があります。

県下で最も古い醤油の醸造元・岡直三郎商店や、老舗の造り酒屋・近藤酒造、レンガの煙突など情緒溢れる散策ができます。また、ながめ余興場では落語やコンサートなどが行われ、訪れる人を魅了しています。



三方良しの井戸（周辺の人が使えるように岡直三郎商店が掘った井戸）



岡直三郎商店工場店舗兼住宅（明治中期建造）



大間々博物館（大正10年建造）



常夜灯（200年前に5基あった内の1基）

みどり市観光ガイドの会

みどり市観光ガイドの会は、市内の観光スポットを案内しています。地区ごとに案内する「おすすめコース」の他、ガイドの会主催企画を実施。「明るく・元気で・楽しく」を合い言葉にボランティアで活動しています。

平成27年群馬ふるさとづくり賞を受賞しました。



みどり市の観光スポットをご案内します
TEL.0277 (76) 1270 FAX.0277 (76) 9049
Eメール kanko@city.midori.gunma.jp